

# 発達評価の指標を含む運動遊びプログラムの開発

和久田佳代\*

聖隷クリストファー大学

## 目的

近年、発達が気になる子供たちは、感覚の発達や中枢神経系の統合に課題があり、身体面からのアプローチが効果的であるとする実践が複数報告されている。

集団での運動遊びプログラムの中で発達を見る指標を明確にすることができれば、保育・教育現場において集団で遊ぶ中で、子供の発達段階や特性を把握することができ、また、その運動遊びを定期的に行うことが発達を促すことにつながり、発達が気になる子供の支援に有効であると考えられた。

## 方法

- 1) 発達を見る指標を含む運動遊びプログラム(試案)を作成する。
- 2) 協力園において試案に沿って実施し、協力園の保育教諭の意見・助言や協力関係にある運動指導者に助言をもらい、プログラムを改善する。
- 3) 改善した運動遊びプログラムを実施し、発達評価につながるか検証する。

## 結果

1) 先行研究やこれまでの研究から発育発達過程に沿った運動(寝返り、腹ばい、四つばい、高這いなど)や環境に適合するための運動(くぐる、渉、ぶら下がる、上る)が有効であると考えられたため、それらを含む運動遊びプログラム(図1)を作成した。

2) 4歳児を対象に運動遊びプログラムを実施し「巧技台のハシゴ渡り」(図2)をiPad miniを用いて撮影し、分析した。ハシゴ渡りの際に、動きがスムーズで速い幼児は自分の手足を確認することがないのに対して、動きがぎこちなく遅い幼児は自分の手足を目で見確認された。

3) 5歳児の体力測定と同時に「巧技台のハシゴ渡り」を撮影し、現在分析を進めている。

## 考察

「巧技台のハシゴ渡り」において自分の手足を見て確認することの背景には、原始反射の残存やボディイメージの未発達があると推察された。「巧技台のハシゴ渡り」は「高ばい」で「わたる」という運動要素のある効果的な運動遊びであり、その中で子供の発達の特性を確認することにつながると考えられた。

## 課題

- 1) 5歳児を対象に行った体力測定と巧技台を使ったハシゴ渡りの結果のデータを詳細に分析するとともに、さらにデータを収集し、検証していく必要がある。
- 2) 今回は「巧技台のハシゴ渡り」に着目したが、巧技台がない環境においてもできる「腹ばい」「四つばい」「高ばい」の動きの指標についても研究を進める。

なお、得られた成果の一部は浜松市保育活動研修(2018年8月)、S園職員研修(2018年12月)で保育士・保育教諭を対象に報告した。

図1 基本の運動遊びプログラム

1	歩く	
2	かかし	片足立ち
3	うさぎ	両足跳び
4	どんぐり	寝返り
5	ワニ	腹ばい
6	うま	ハイハイ、高ばい
7	あひる	
8	ペンギン	膝立ち歩き
9	かめ	
10	巧技台サーキット	
	トンネル・平均台	
	ハシゴ・滑り台など	
11	かかし	片足立ち
12	うさぎ	両足跳び

図2 巧技台のハシゴ渡り



倫理審査	■承認番号(18049) □該当しない		
利益相反	■なし □あり( )		
発表状況	種別	□著書 □論文 ■学会発表 □紀要 □その他( )	
	年月日	2019年8月31日(□確定 ■予定)	